



tasar

107

Japan Tasar Association
<http://www.tasarjapan.org/>

Tasar News Letter
Vol.107
Jan. 2019



photo by Junichi Hirai / BULKHEAD magazine JAPAN

CONTENTS

第 33 回全日本選手権大会を振り返って	1
理事会からの連絡	2
クラスルール改正提案のお知らせ	
2018 年度第 3 回理事会開催案内	
第 33 回全日本選手権大会特集（レースレポート）	3
レース公示（ウィンターレガッタ）	（別添）

第 33 回全日本選手権大会を振り返って

会長

田中 郁也

第 33 回となるテザー全日本選手権が、日本のテザーの“ふるさと”ともいえる葉山で開催されました。1986 年にはじめての全日本が開催されて以降、1992 年の葉山ワールド（兼全日本）まで、7 年連続で葉山開催となりました。この間に日本のテザーは艇数を増やし、世界選手権を開催するまで力をつけた、そのような時期であったと思います。

十分な風と申し分のない距離をとったコースで 5 レースが実施され、実力を存分に発揮できる大会であったと思います。その中で、全レースストップという素晴らしい成績で伊藤・本吉組が優勝、初の全日本タイトルを手に入れました。ヘルムの伊藤選手は 2016 年からテザーを始めたのち、蒲郡ワールド前後で着実に力をつけ、積極的にレースに参加、上位陣の常連となりました。クルーの本吉選手は、研究熱心。JTA の練習会のコーチも引き受けてくれていて、セールやリグ設定など、客観的で分かりやすい解説が好評です。チームを組んで 3 回目の全日本。おめでとうございます。是非、海外の大会に挑戦していただき、その力を発揮していただければと思います。

今大会には、蒲郡ワールドをきっかけにテザーに加わった方も多く参加されていました。うれしい限りです。これからも、テザーに多く乗って楽しんでいただきたいと思います。例えば今大会のような、陸風で時々ガストが入るコンディション。クローズでは、風への反応が遅れると艇は止まりますが、艇の向きとセールを合わせると止まりません。ダウンウィンドでは、風が入ると、短い時間でスピードに変わり、風の息の間をうまくつなぎ、スピードを維持することで、かなりの差がつきます。テザーの特徴と面白さの一つではないでしょうか。

本大会の準備、運営に当たられたスタッフ並びにジャッジの皆様に改めて感謝いたします。本大会に限らず、レガッタの準備、運営には、多くの方がかかわっています。現在、テザー協会は年間 7 回のレガッタを開催していますが、開催地の皆様のご協力なしには成り立ちません。常に準備・運営に当たられている方々への感謝の気持ちをもってレガッタに臨みたいと思うとともに、これらの活動が永く続くためにはどうしたらよいか、思案しています。

さて、新たな時代が始まる 2019 年。3 月の江の島・ウィンターレガッタを皮切りに、葉山、新潟、芦屋、猪苗代、和歌山、蒲郡、稲毛でレースを開催します。そして 7 月にはイギリスでワールド（世界選手権大会）も開催されます。さらに、2 年後の 2021 年に開催される関西ワールドマスターズゲームズ（セーリングは和歌山開催）の準備も着々と進んでいます。今シーズンも多くのセーラーの参加をお待ちしています。

今年もテザーを楽しみましょう。2019 年が、みなさまにとって素晴らしい 1 年となりますよう。

クラスルール改正提案のお知らせ

会長 田中郁也

テザーセラーの皆様へ

世界テザー協会より、テザークラスルール改正のために投票を求める旨の告知がありましたので、お知らせします。告知と JTA メジャラーによる仮訳を以下のフォルダーに保存しましたのでご確認をお願いします。

<https://drive.google.com/drive/folders/1jOw8d8Ky7REkZDvbriheKydz1rOIu58s>

日本テザー協会では、前回のコンパスにかかるルールの改正提案と同様に、臨時総会を開催し、JTA 会員によるオンライン票決を行う予定です。

<http://tasarjapan.org/index.php/jta/notice/204-2017generalmeeting-extra>

現在、投票の案内等の準備を行っていますので、臨時総会の告知として改めてご案内します。ご質問等がある場合には 1 月 19 日（土）までに tasar@tasarjapan.org 宛にお知らせください。よろしく申し上げます。

JTA 通信 2019 年 1 月 12 日掲載

<http://jta-board.blogspot.com/2019/01/blog-post.html>

2018 年度第 3 回理事会（2 月 2 日）開催案内

事務局 植田泰平

テザーセラーの皆様へ

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

次回理事会を下記日程並びに場所で開催します。

理事会は理事メンバー・フリートキャプテンが参加していますが、どなたでもオブザーバーとして参加することが出来ます。協会がどのように運営されているか興味のある方、協会運営に対してご意見やご要望のある方のご参加をお待ちしております。

（会場の都合がありますので事前連絡をお願いします。）

尚、今回も関東会場、関西会場での WEB 会議形式となります。宜しくお願い致します。

日時：平成 31 年 2 月 2 日（土）13：00～17：00

場所：関東会場：西麻布いきいきプラザ 集会室 B（洋室）

<https://www.central.co.jp/plaza/nishiazabu/map/index.html>

関西会場：植田宅（下記 URL にてご確認ください）

議題：JTA 総会議事確認ならびにメンバー意見のフォローアップ

葉山全日本振り返り

2019 年度レース日程確認（蒲郡全日本準備態勢）

協会メンバー確保について

クラスルール改正対応 等

JTA 通信 2019 年 1 月 9 日掲載より抜粋

<http://jta-board.blogspot.com/2019/01/2018322.html>

伊藤・本吉組が後続を振り返らず完全優勝を果たす

2011 年以来、久々に葉山に戻ってきたテザークラスの全日本選手権。10 月 20、21 日の 2 日間に渡り開催され、大阪北港・芦屋・蒲郡・浜名湖・葉山・稲毛・江の島・北海道の各地から 33 艇が集まりました。

(レポート/日本テザー協会：小松充さん)



今大会は、葉山らしい広々とした海を満喫しようという運営側の心意気がありました。選択されたレースエリアは日本初のテザーワールドが繰り広げられたエリア。地元葉山の運営チームの思いも熱くなります。

手弁当で運営する葉山フリートの運営メンバーには GPS などの機器はなく、マークの視認が困難でしたが、運営に参加してくれた成城大学のヨット部員の若い視力を頼りにベストコースを設営、舞台を整えました。

思い起こせば、昨年の蒲郡ワールドでチャンピオンとなったテザーレジェンド、ジョナサン&リビー・マッキーもここで開催された葉山ワールドがテザーワールド初参戦でした。

全日本らしい舞台は整い、数度のゼネラルリコールの後、第 1 レースがスタート。伊藤・本吉組がリードして 1 上を回航するものの、これがまさかのマーク誤認。後続艇もこれに続いてしまったため、第 1 レースは中止されます。

第 2 レースは、昨年のチャンピオンである山村・吉田組、続いて軽部夫妻組がリード。しかし、2 上の展開で、有利な左海面に展開した伊藤・本吉組と山本・鈴木組が上がり、そのまま、1 位、2 位でフィニッシュとなります。

第 3 レースは、伊藤・本吉組が他の追従を許さないクローズのボートスピードと堅実なコース選択で、他を圧倒し、初日オールトップでリードします。

結果、初日の暫定順位は、1 位に伊藤・本吉組、2 位に軽部夫妻組、3 位に地元葉山の小松・西原組となりました。

夜はレセプションパーティーに盛り上がりますが、ハイクアウトとプレーニングで葉山の海を満喫した選手たちにはセーリングでお腹一杯の様子もチラホラと見受けられます。

明けて 2 日目。第 4 レースも、前日同様、伊藤・本吉組がフリートをリードします。小松・西原組が続くものの、残念ながら UFD。また、山村・吉田組はこのレースが DNS と上位グループにトラブル発生。そんな中、堅実に軽部夫妻組がスコアを伸ばし、このレースで 2 位フィニッシュとなった田中夫妻組が追い上げるきつ掛けをつかみます。

さらに、今大会唯一の女性ペア、松苗・齋藤組が好順位に。女性の活躍は、テザークラスの特長のひとつでもあります。齋藤選手のハイクアウトフォームは実に美しく、2 人のコンビネーションは今後を期待させるものがありました。

第 5 レース、もはや誰も手を付けられない伊藤・本吉組が自分たちのボートスピードとコース選択を信じて、後ろを振り返らないままトップフィニッシュし、優勝を決めます。

残るは、2 位以下の入賞争い。田中夫妻組が 2 位につけ、スコアをさらに挽回、小松・西原組、軽部夫妻組と続きます。結果、2 位争いは、稲毛の軽部夫妻組と葉山の小松・西原組の争いになりますが、ここで風が東の風に変わり、やや風が落ちていきます。

最終第 6 レースは、東寄りの風が入る中、上寄りのスタートが大混雑。大量の UFD を出した混乱スタートをうまく抜け出した伊藤・本吉組と軽部夫妻組が 1 位、2 位となり、伊藤・本吉組が完全優勝を達成。苦手な風域をなくし、着実なスコアメイクを身につけた軽部夫妻組が総合 2 位になり、テザーマスターとしてベテランの域を極めつつあるところをみせます。

伊藤・本吉組は、蒲郡ワールドの後も着実なステップを踏み、この全日本に向けては最後の 1 週間をしっかりと乗り込んで、絶対的なボートスピードを身につけて、全日本初優勝に臨みました。確固たる自信を感じさせるスピードとレース展開が見事でした。

次の公式戦は 2019 年 3 月 10 日 に江の島で開催されるウィンターレガッタです。2018 年度スケジュールはホームページに掲載しています。

(<http://tasarjapan.org/index.php/events/208-2018schedule>)

テザークラスは、従来のボートからハイパフォーマンスディンギーへの橋渡しをしたようなボートで、49er などでも有名なオーストラリアにあるベスウェイトデザインによるボート。

従来のボートでは物足りない方、過激なボートに踏み込めない方、男女問わず、年齢問わず、マルチなニーズに応えるクラスです。「ちょっと乗ってみたい感じだったんだよね」という学生さんの試乗なども歓迎です。

(10/30 BULKHEAD magazine 掲載より)

全日本選手権を振り返って

伊藤一石さん (JPN2741)

今回は本吉夏樹とのコンビを結成してから 3 度目の全日本選手権でした。

最初の和歌山大会は強風の 2 日間で、ほとんど「乗ってるだけ」という状態の中、それまでの自由奔放な食生活で培った体重だけが唯一の武器でした。プロセラーであり、テザーへの造詣も深いクルーの夏樹はともかく、私に限っては正直、テザーの何たるかの欠片も理解できていない状況でした。

2 回目は昨年の稲毛大会。蒲郡でのワールドも経験し、それなりに課題も分かっていたつもりですが、結局それを解決するに至らず、地元の山村選手に完全に封じ込められての 2 位。表向きには前年より 1 つ順位が上がってメダタシとなるのですが、本人的には不完全燃焼以外の何物でもないレガッタとなりました。しかし、この時こそが今回の全日本選手権に繋がる瞬間となったのです。ただただ、「勝ちたい」という漠然としたビジョンから「誰よりも速いボートスピードを手に入れたい」という具体的な目標が生まれたのです。レースにおけるコースプランや、ストラテジーは、言わずもがな世界の舞台で戦ってきた夏樹の真骨頂です。それを具現化するには圧倒的なボートスピードを引き出すことが私の唯一の役目だという結論に至りました。

どうすれば、そのボートスピードを実現できるのか。

その答えはすでに夏樹から提示されていました。しかし、どうしてもボートが言うことを聞いてくれない。まだまだ私のハンドリングが未熟であるという結論に至った中で、日々練習を重ねていました。ところがある時、夏樹から今一度リグのセッティングから見直そうというアドバイスがあり、ダイヤモンドのテンションや、フォアステイの長さも数ミリ単位で変更、さらにジブトラックの位置、ジブタックといったセッティングもすべて一からのテストとなりました。よりスムーズなセイルトリムの為にトラベラーレールも新品に交換。そして直前の 1 週間、運良く風に恵まれ続けた葉山での連日の練習の中で、そのセッティングが徐々に確信へと変わっていきました。特にアップウインドでは、明らかに今までとは違うスピードの感覚が感じられ、それに伴い、新たなストラテジーの引き出しも増えたように思います。

海上での夏樹からの指示はいつも正確かつ的確です。「もう少し〇〇して」と言ったような抽象的な表現はほぼゼロに等しく、「あと〇度バウを上げて」、「あと〇秒このモードで走って」、「バウをあどの山の右端に合わせて」とすべての指示に迷いが無いため、自分が出来ていない部分がはっきりと分かるので、練習中の課題はいつも明確です。ヘルムスマンである私は、ただティラーを持っているだけと言っても過言ではありません。しかし、だからこそボートスピードを引き出すことが唯一最大のヘルムスマンの役目となっているのです。



圧倒的なスピードで優勝を果たした伊藤・本吉組

このような状況でボートの仕上がりはほぼ 100%、体重調整も上手くいき、あとは当日を迎えるのみ、となった段階で残された要素はこれまでの練習で培ったそのスピードを本番で再現できる「平常心」でした。今回、メインで我々のチームをサポートしてくれたのは、今シーズン私がコーチを担当した母校の選手です。私なりにプレッシャーを感じていた今回のレガッタにおいて、自分のセーリングや考え方を全て伝えてきた人間が海上にいるということは、何事にも代えがたい安心感でした。2 日目にはキールボートのチームと一緒に活動しているメンバーも合流し、万全の体制で 2 日間を戦い抜くことができ、さらに「パーフェクトスコア」という願ってもいない形で優勝することができました。

さて、今回「テザー日本一」という節目となるタイトルを獲得しましたが、今後もまだまだ、ライフワークとしてテザーに乗り続けていくつもりです。もちろん世界にも挑戦し続けていきたいです。その過程で若い世代にセーリングの楽しさやカッコよさ、そしてテザーというボートの魅力を全力で表現していくことが今後の役目かなと勝手に思っています。

全日本選手権に参加して

軽部 香さん (JPN2881)

亀山さんから「総合 2 位となった女性ヘルムとして感想を書いてもらえませんか」と、お声がけ頂きました。

セーリング競技は自然相手の乗り物競争という事もあり、他のフィジカルなスポーツに比べて男女の差は少ないかなと思ってます。ただ、男女ペアは、男子ペアに比べて軽量チームになりがち。やはり 7m/s 以上のコンディションで早々にオーバーパワーになり、レースでも苦しい展開になります。我がチームもテザーに乗り始めて以来、オーバーパワーコンディションでの走りが課題でした。

今年は、セッティングと走らせ方を変えてみました。オーバーパワーコンディションの中でパワーダウンさせる事に専念するのではなく、しっかり風を捉えて走らせる事にしました。強い風の中で新しい走り方を試す機会が今大会となりました。

では、試した結果はどうだったかという、クローズのスピードが以前と比べ良くなったと思いました。

どんなところで感じたかという、スタート後に他艇と並んでクローズ走っている時に横流れしなくなり、下側のヨットに近づいてしまい逃げる為のタックをする事がなくなりました。おかげで走りたいところを、走れるような自由度が増しました。

成績は総合 2 位！嬉しかったです。

新しい課題も見つかりました。まだ、速くなれる気がしています。優勝の伊藤・本吉組とは、フィニッシュで大差をつけられています。この差を縮めていきたいです。

オーストラリアには世界選手権でレディースヘルム賞の常連、ヘザー マクファーレンさんという男女ペアの女性ヘルムがいます。彼女は体格も日本人とさほど変わりませんが、強風の世界選手権で、いつも上位に入ります。蒲郡ワールドでは、彼女は総合 8 位でした。彼女の存在を知り、私の目標となりました。

近年のレガッタでは、関口・上松組、黒臺・石川組の女性ヘルムが活躍しています。また、今大会では松苗・斎藤組は女性ペアで全日本 5 位という活躍です。感想文書いていて気づきましたが、やはり、レース中は彼女達の存在は特別に意識するし、男子のヘルムに負けた時より、燃えます!!

女子セーラーの活躍は、私がテザーを続ける原動力になっています。もっと、女子が増えてくれたらいいですね。

世界選手権でのレディースヘルム賞争いができるように、レベルアップしていきたいです。



マスタークラスも制した軽部・軽部組
さらなるレベルアップを目指します！

スーパーグランドマスター優勝！ 池田・秋吉組（JPN2669）

今シーズンの2669の遠征レースですが、アーリーサマーレガッタは風に翻弄され1レースのみ。西日本選手権は、警報が解除されずノーレース。オータムレガッタは、台風21号で艇を運ぶ車のガラスが破損、泣く泣くキャンセル。と不運が重なっていました。今回の全日本は必ず参加したいと思っていました。

10月19日（金）のお昼頃にパフォーマンスに到着。艇の修理をし、葉山港には夕方に到着しました。ハードスケジュールで葉山に到着したので翌日に備える為に早目の就寝をしました。

10月20日（土）は朝から良い風？、私達にはハードなコンディションでした。強風でのランニング出艇、半分水につかり艇を持ちクルーが乗ると私が艇に乗り込んでいないのに艇が走り出しました。落水と同じです！サイドステーションにしがみつきやっとの思いで乗り込みました、落水しながらの出艇は初めてです。スタート地点に行くまで沈まないように大変でした。

浜名湖の長谷川さん艇は黒球（完沈防止浮き）付けていましたが我々も付ければ良かった、と思いながら強風の中スタート地点へ。すでにクラス旗は上がっていましたがP旗だったので遅れても数分以内ならスタートできると思い突っ込みました。U旗じゃなかったのはコミッティーの配慮かも……。ゼネリコで助かりました。

マボロシの第1レースが終わり第2レース 亀山・井上ペアの上側からスタート、彼らのスタートが自然と目に入りました、教科書通りのスタートで数秒前から少し落としスピードを付けてスタート、強風の中でクルーの動きが良く、思わず見入ってしまいました。

スタート直後、松苗・斎藤ペアが強風でヒールしながらキヤーキヤーいいながら走っていました。でもそれは初日だけで次の日はフラットにしながらグイグイ前の方を走っていました吸収力とセンスがあるでしょう、さすがです。

レース中、本吉譲治・三苫稔尚ペアの後ろを離れて走る機会がありました。上りレグ、セールツイストが非常に綺麗、我々は顔を見合わせてレース中なのを忘れて「今日のパーティーでやり方を聴こう。二人で頼めば教えてくれるかも、数十年のお付き合いやし」という事で思い切って聞きました。

本吉譲治さん曰く、「あれを引くんだよ！！」

ツイスト以外もあれこれ、お酒のせいとかにかく優しく親切に教わりました。

レース二日目のサイドマーク付近での出来事、我々より前を走っているのに後ろの艇団が気になるのかサイドマークのはるか離れた所で安全ジャイブをして艇団の大声とは無縁の場所から下マークに向かっていました、最初その艇に勝っていましたが下マークでは水を取られました、上手でした。池田夫妻の艇でした。

* 奥様を気遣ってか安全ジャイブと安全マーク回航、思わず応援したくなりますね（スキッパー談）

* 優しいスキッパーで羨ましいなあ～（クルー談）



総合でも6位入賞、遠征大好き、池田・秋吉組

最後に、今回の全日本で2669について。

コースはスタートしてから暫くは左海面を走り、右海面を走るイメージでいました。が、思うところで右海面に返す事が出来ないことが多かったです。と思えば、左海面に突っ込み過ぎたので思い切って左海面の端まで行くと、いい感じに上マークに辿り着く事が出来ることもありました。後は良く吹いていましたので、クローズはヒールに注意しフラット優先で走りました。

（記憶が曖昧なため、レースの詳細については第何レースの何レグだったか、定かではないところがありますこと、お許し下さい。）

昨年の蒲郡ワールドからテザーに乗り始めましたが、今回はいつものペアの都合がつかず、日頃クルーザーや49erFXと一緒に乗っている齋藤と女子ペアで出場することになりました。

私達は普段からコース取りの向上を課題に取り組んでおり、セーリングモードの使い分けのバリエーションの多いテザーでのレースは、今の課題に対する理解度を確認する意味でも最適な機会だと考えていました。

今回は自分自身がテザーのヘルムスマンははじめての挑戦で、トラベラートリムの経験がないことや、クルーのハイクアウト艇経験不足などの不安要素がある中での参加で、レース当日はより不安になる強風でシフトの激しい北風のコンディションでした。

初めはスピードボートの早い展開についていけなかったり、ボートの扱いに戸惑ったり、特にテザー特有のリーチングレグの帆走が劇的に遅く、毎回リーチングで10艇以上に抜かれたりという始まりでしたが、クルーと相談しながら周りの選手の走り方を盗んだり、思った以上に2人ともハイクアウトを頑張れたり、動作やボートスピードも回を追う毎に良くなり第3レースくらいからやっとレース展開に集中出来るようになりました。

2日目も変わらずシフトコンディションで、ボートスピードにアドバンテージを持てるようになり先行するも、フィニッシュ前のレグで抜かれてしまうなど、ベテラン勢のスマートで手堅いレース運びを見せてくれ流石という印象でした。

今回は総合5位で入賞出来たことはとても嬉しいですが、スピードボートの戦い方や考え方を少し理解することが出来るようになったことが一番の収穫です。

テザーのレースはいつもセーリングを深めてくれるような実りがあります。また、テザー界のアットホームなレセプションの雰囲気は、地元でヨットを始めた頃感じた楽しいという気持ちを思い出させてくれるような場所です。

レースは繊細で真剣、陸ではフレンドリー、そんなテザー界がもっともっと盛り上がり行ったらいいな、と思いました。

私自身もまた機会があるたびに参加して、次は1つ上の順位を目指していきたいと思います。

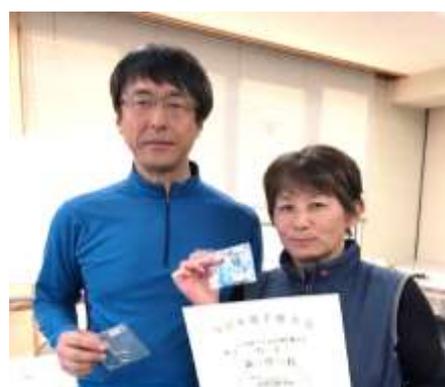
運営していただいた皆様、いつも温かく迎え入れて下さるセーラーの皆様、ありがとうございました。



華やかでかっこいい！ 松苗・齋藤組



3位入賞、ベテラン小松さんと初参加の西原さん。



グランドマスター田中・田中組は4位入賞。

テザー全日本感想です

中村 純也 さん (JPN2866 で参加)

今回、テザーの大会に初めて参加させていただきました。レースに出場するのは、高校3年生の時以来なので、3年ぶりです。私がテザーに乗り始めたのは8月頃からで、高校生の時に乗っていたFJと違うこともあり、慣れるには時間がかかってしまいました。

レースではミスを連発してしまい、一緒に乗ってくださった渡辺さんに迷惑をたくさんかけてしまいました。久しぶりのレースはとても楽しかったです！

また、1日目が終わった後のパーティーでは、テザーに乗っている方々の仲の良さに驚きました。今後自分も参加していくことでその繋がりに入っていただけたらと思います。

今回の全日本選手権では、ハイクアウトが長く持たず、タックもあまりうまくいきませんでした。これらのことを今後、練習を重ね改善し、次回の大会では今回よりもいい結果を出せるように頑張りたいと思います。

気軽にテザー全日本

鈴木 よしお さん (JPN2605 で参加)

キールボートのチーム内でテザーが流行っていたので、葉山でやることもあり、テザー全日本に出てみることに。

レース当日までは、船探しに苦労したものの、乗ってみると意外とモンスターマシン！そして艦装がシンプル！初めて乗るには乗りやすいボートだと感じました。

パーティーも初参加紹介があり、とてもありがたく、面白い企画と感じました。最後に運営の皆様、テザーの皆様、今回参加させていただき、ありがとうございます。では、ウィンターレガッタでまたお世話になります。

気づいたこと…

協会費が安い、船がスキフボートみたく面白い、チャーターボートがあると初参加組は楽かも…、です。

第33回テザー全日本選手権に参加して

松苗 勇貴 さん (JPN2605 で参加)

今回初めてテザー級のレースに参加しました。私はディンギーレースに出場する事も10年振りぐらいでしたし、二人乗りのクルーとして参加する事も初めてであったため、レース前から不安と楽しみな気持ちで一杯でした。

スキッパーの鈴木との練習はレース前日の3時間程でしたが、テザーの軽快な走りに驚きました。私は高校の頃FJに乗っており、現在は母校の高校生のコーチングをしたり、クルーザーのレースに出場したりしています。

レース初日は、2人ともテザー未経験ということもあり艇のジブカムが掛からないなど、トラブルが多く厳しいレースが続きましたので、帰着してすぐにメンテナンスを行い、2人で反省会をして2日目のレースに挑みました。2日目の第1レースでは第1マークをシングルで回航出来、明らかに順位が上がってきたので本当に良かったです。2人ともレースを行う事に上達しているのがわかったのでレース中とても面白くて、いい経験になりました。

これからもっと練習してテザーでメダル取れるように頑張ります。

第 34 回全日本大会、蒲郡でお待ちしています

蒲郡フリート 古内・真栄平 さん (JPN2073 で参加)



蒲郡フリートの古内・真栄平です。真栄平は昨年のワールドの出場経験がありますが、私、古内はテーザーのレースに今回初めて参加させていただきました。

他艇種でのレース経験はあるものの、初めてのテーザーのレースが全日本選手権であり、また、葉山でのセーリングも初めて。初めてづくして緊張しましたが2日間良い風に恵まれ、ハイクアウトとプレーニングを楽しむことが出来ました。

テーザーのレースに初出場の私は今回のレースがテーザーに乗り始めて4日目で、18ノット前後のハイクアウトコンディションでセーリングするのは初めてでした。

また、プレーニングも初めてで、そのスピードに翻弄され、初日は乗るだけで精一杯でした。レース期間中、スタート、各レグ、マーク回航等の各シーンで他艇の動きを参考にさせていただき、見様見真似で毎レース試行錯誤をして、2日目にしてようやくまともに乗ることが出来(?!)しました。しかし、経験不足は否めません。クローズでは角度が取れず苦勞をし、フリーでは他艇の艇速についていけず、成績は散々でした。そんな中でも、他艇と争える場面もあり、レースを楽しみ、満喫する事が出来ました。

葉山の北風コンディション、テーザーのスピード感とレース展開の速さ、レセプションの楽しさ、どれを取っても初参加の私にはとても刺激的で有意義なものでした。また、レース海面が2020年の東京オリンピックの海面だと閉会式で伺い、非常に感慨深い良い思い出になりました。初参加でも快く迎えていただき、テーザー協会の皆様、運営の皆様には感謝しております。ありがとうございました。

来年の全日本はホームの蒲郡、時期的にちょうど北西の風が吹き始める時期で、良いコンディションが期待できるかと思います。皆様の参加を心よりお待ちしております。



選手一同、風に恵まれ大満足の2日間でした

△あけましておめでとうございます。新しい年をどのように迎えられましたか。初乗りしました？北海道では根室でアイスヨットが楽しめるそうですよ△全日本参加の方々から素晴らしい原稿が届きました。ありがとうございます。新年のご挨拶には少し遅れましたが、特集号を発行しました。△次号はいよいよ「平成最後のニュースレター」。みなさまからの寄稿、特に遠征レポ、大歓迎です。楽しい写真もウエルカム。△2019年もイベントが盛りだくさん。再会、そして新しい出会い、楽しみです。Waku² with Happy Tasar! (のり)

2018年度 テーザー級全日本選手権

出場33艇 平成30年10月20日/21日 於：葉山港

Entry No	SailNo	Skiper	Crew	Crew	Fleet	Class	第1レース			第2レース			第3レース			第4レース			第5レース			第6レース			合計	CUT	NET		
							着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点					
1	18	2741	伊藤 一石	本吉 夏樹	江ノ島					1		1	1		1	1		1	1		1	1		1	5	1	4		
2	29	2881	軽部 香	軽部 竜也	稲毛	M				3		3	2		2	5		4	4		4	3		2	15	4	11		
3	3	2761	小松 充	西原 拓海	葉山					4		4	3		2	UFD		34	3		3	7		5	49	34	15		
4	9	2765	田中 郁也	田中 紀子	未所属	GM				10		10	10		10	3		2	2		2	11		7	31	10	21		
5	25	2615	松苗 幸希	齋藤 由莉	未所属					16		16	7		7	4		3	9		9	5		3	38	16	22		
6	15	2669	池田 俊則	秋吉 寿美子	大阪北港	SGM				11		11	6		6	10		9	7		7	16		11	44	11	33		
7	22	2768	紙 聡	日根野 麻里亜	葉山	M				14		14	8		8	9		8	16		15	6		4	49	15	34		
8	31	2707	石塚 恒志	蜂須賀 強	浜名湖	SGM				6		6	12		12	6		5	14		13	20		15	51	15	36		
9	24	2705	植田 泰平	植田 典子	芦屋	GM				8		8	5		5	24		23	11		DSQ	34		9	79	34	45		
10	4	2593	亀山 寛達	井上 敦	稲毛	M				15		15	15		15	13		12	17		16	10		6	64	16	48		
11	1	2736	山村 太郎	吉田 向志	稲毛					5		5	4		4			DNS	34		6	2		UFD	34	83	34	49	
12	23	2880	池田 陽平	池田 和希	稲毛					28		28	14		14	11		10	15		14	17		12	78	28	50		
13	14	2960	本吉 譲治	三苫 稔尚	江ノ島	M				13		13	9		9	22		21	8		8	4		UFD	34	85	34	51	
14	19	2605	鈴木 祥郎	松苗 勇真	未所属					19		19	17		17	7		6	13		12	8		UFD	34	88	34	54	
15	5	2861	三輪 記裕	中山 弘幸	大阪北港					26		26	20		20	16		15	10		10	15		10	81	26	55		
16	21	2	関口 真秀	上松 慮生	江ノ島	M				9		9	24		24	18		17	26		25	12		8	83	25	58		
17	30	2706	中本 廣之	石丸 寿美子	葉山	GM				17		17	13		13	12		11	19		18	23		18	77	18	59		
18	20	2866	渡辺 克充	中村 純也	芦屋					20		20	21		21	23		22	5		5	19		14	82	22	60		
19	12	2749	野口 優	杉田 智宏	稲毛	M				21		21	18		18	8		7	25		24	24		19	89	24	65		
20	32	2396	山本 晴之	鈴木 誠	葉山	GM				2		2	11		11			RET	34		20	19		13	UFD	34	100	34	66
21	2	2719	黒臺 櫻	石川 光輝	大阪北港					18		18	22		22	15		14	22		21	18		13	88	22	66		
22	33	2893	山田 真	中尾 菜美	江ノ島					12		DPI	12.6		19	17		16	24		23	9		UFD	34	105	34	70.6	
23	10	2073	古内 祐介	真栄平 伸二	未所属	M				29		29	26		DPI	27		13	12		11	25		20	100	29	71.3		
24	13	2623	黒谷 豊	荒川 徹	芦屋	GM				22		22	23		23	21		20	21		20	27		22	107	23	84		
25	27	2807	平田 貴之	中野 佳代子	未所属	M				23		23	25		25	25		24	23		22	21		16	110	25	85		
26	28	2657	長谷川 勝啓	長谷川 帆風	浜名湖							DNC	34		DNC	34		19	18		17	22		17	121	34	87		
27	6	2709	石井 浩一郎	宮下 知之	葉山	GM				7		7	16		16			RET	34		UFD	34		DNC	34	125	34	91	
28	8	2808	石川 洋二	鬼塚 一浩	葉山	GM				27		27	28		28	19		18	27		26	26		21	120	28	92		
29	7	2821	戸室 宣房	柏崎 梢	江ノ島	GM				24		24	27		27			DNS	34		DNC	34		DNC	34	153	34	119	
30	11	2862	金子 謙一	大川 晃弘	未所属					25		25	29		29			DNS	34		DNC	34		DNC	34	156	34	122	
31	16	2469	塩 信之	森 卓也	江ノ島	M						RET	34		DNC	34		DNS	34		DNC	34		DNC	34	170	34	136	
31	17	2720	岡 誠	中井 彬人	葉山							DNS	34		DNC	34	170	34	136										
31	26	2200	小松 正勝	小松 美沙	未所属	M						DNC	34		DNC	34	170	34	136										

ノーレース